



住まいとコミュニティづくり活動助成事業（地域・コミュニティ活動助成）

平成 29(2017) 年度 成果発表会 & まちづくり NPO 交流の集い

平成 30(2018) 年 9 月 1 日(土) に御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター RoomC にて平成 29(2017) 年度「住まいとコミュニティづくり活動助成事業（地域・コミュニティ活動助成）」対象団体の成果発表会を開催しました。

開会挨拶



松本 昭 氏（財団専務理事 選考委員）

例年開催している発表会ですが、今回は最初に財団の理事でもある早稲田大学教授 卯月盛夫先生にコミュニティ活動について基調講話をさせていただきます。その後、3つのテーマに分けて昨年度の助成対象団体の皆様から成果の発表をしていただき、地域・コミュニティ活動について、本日ご参加いただいた皆様と内容を深めたいと思います。



第 1 部 基調講話



「コミュニティ活動からの地域づくり－その新しい潮流」

早稲田大学教授 卯月盛夫 氏

「ヨコハマ市民まち普請事業」(*) によって、市民が自ら施設を整備・運営することで生み出した施設の「社会的価値」と地域社会への効用について試算・評価した調査研究の分析結果に基づいて、



- 調査された施設には市民の労力提供や物品提供・寄付等が加わって、市からの助成金額以上に整備がなされている
- 整備された施設では想定されていなかった新規課題にも取り組む拠点となっているなどの事例がある
- 500 万円の助成金で整備した施設の社会的価値を金銭換算した結果、1 施設が生み出した社会的価値の合計額は 2,251 万円になった

ということなどお話しいただきました。

また、卯月先生は、市民活動助成を定着させるためには、助成がどのような社会的価値を生んでいるのかを明確なメッセージとして発信することの重要性についても指摘されました。

(*) ヨコハマ市民まち普請事業：市民から身近なまちの整備に関する提案を募集し、2段階にわたる公開コンテストで選考された提案に対し、最高 500 万円の整備助成金を交付するもの

第2部 各団体成果発表

テーマ1 子どもと地域環境

1. 希望と笑顔のこすもす公園（岩手県釜石市）

【活動テーマ】子どもたちに希望と笑顔を贈る公園整備活動

東日本大震災後に休耕田につくった公園にこれからも安心して子どもたちが遊べるようにチップを敷き、遊具の改修を行いました。

【キーワード】仮設住宅 私設公園 維持管理

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

- ① 公園を守る子ども会の設立（ゴミひろいや草取りを実施） ② 他の団体と連携したイベントの開催
③ いつでも元の田んぼに戻せるように整備時に木材やチップの使用



発表者 藤井了さん

2. NPO法人くにたち農園の会（東京都国立市）

【活動テーマ】田畠とつながる子育て古民家を拠点とした地域コミュニティの形成

古民家の拠点で、外国で育休を取得した父親の写真展や、井戸水の散水シャワーの取り付けによる施設改修を行いました。

【キーワード】子育て支援 都市農業 古民家拠点

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

- ① 多用な人材で運営 ② 地域の課題に対するアンテナの張り巡らし ③ 資金の確保



発表者
菅井まゆみさん 小林未央さん

3. NPO法人さぬきっずコムシアター（香川県丸亀市）

【活動テーマ】古民家納屋を再活用した三世代を繋ぐ地域の拠点づくり

古民家の納屋を多世代が集える地域の拠点とするコンバージョンを目指して、意見交換・清掃・壁塗り作業等のWSを行いました。

【キーワード】古民家納屋 多世代交流 コンバージョン

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

- ① 人のつながりによる人材の増加 ② 行政等他機関との協働
③ 夢を持てるように子どもを活動の真ん中にする



発表者
高橋勝子さん 塙本一也さん

※やまがたこどもアトリエ（山形県鶴岡市）は、都合により参加されませんでした。

質疑応答

「希望と笑顔のこすもす公園」へ



公園の用地はどのように確保しているのですか？行政の支援、指導はありますか？
(前評議員／杉山茂一氏)



自分が所有している3,000m²の田んぼです。民間の支援はありますが、行政の支援はありません。



農地変更の税金は自己負担ですか？
(理事／安藤雄太氏)



活用が終わったらすぐに戻すので農地のままにしています。

希望と笑顔のこすもす公園

藤井了さん

「くにたち農園の会」へ



市の地域子育て支援拠点事業を受託したことで環境整備などが厳しくなり、子どもの遊び場として不便になった点、矛盾点はありませんか？(理事／安藤雄太氏)



書類作成の煩雑を感じます。また、市の委託事業で行うイベントは参加費が無料で、自主事業で行う方は料金を徴収するという二段構えに慣れつつあります。



くにたち農園の会
菅井まゆみさん

3団体へのコメント



それが、開かれた拠点づくりを目指し果敢に活動されている発表でした。
(評議員／加藤種男氏)



市民活動における拠点の重要性を感じました。拠点があることで次の展開が見えてきます。また、各団体はボランティアを募る際にお願いをするというスタンスではなく、自分達が社会的な場を提供していると捉えてもらいたいです。(選考委員／山下馨氏)

テーマ2 地域資源の活用

4. NPO法人事気NGO(千葉県千葉市)

【活動テーマ】空き古民家再生による地域コミュニティケアの拠点づくり

地域住民や学生の参加を得て拠点の古民家のキッチンや蔵の改修、イベント開催、耕作放棄谷津田の再生を行いました。

【キーワード】ベッドタウンと里山集落 古民家 若者の居場所

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

- ① リーダーシップをとらない ② 多様性を保つ ③ 遊びでやる（ふざけてではなく）



発表者 酒井洋平さん

5. 古町花街の会(新潟県新潟市)

【活動テーマ】伝統的料亭型花街での景観まちづくりに向けた活動

伝統的料亭型花街にふさわしい提灯の配布と掲出、案内板の設置、防災シンポジウムの開催及び、先進地見学を行いました。



発表者 久保有朋さん

【キーワード】歴史的町並み 花柳界 防災・防犯力強化

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

- ① 地元に昔からある組織との連携体制の構築 ② 花柳界らしさ ③ 洗練されたものをつくるデザイン性

6. 中万町自治会(三重県松阪市)

【活動テーマ】豪商のふるさと中万のまちなみメンテナンス

豪商を輩出した町並みを守るために、60年ぶりに市を復活させて住民自ら門や庭を整備するメンテナンス費用を捻出しました。



発表者 西村篤史さん

【キーワード】歴史的町並み 市の復活 住民自らメンテナンス

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

- ① メンテナンスと市の継続 ② 地元の良さを学ぶ ③ 町並み保存は人づくり

質疑応答

「古町花街の会」へ



若い人が料亭のある古い花街に関与するモチベーションはどのようなことですか。
(評議員／加藤種男氏)



大学の研究で地域に関わったのがきっかけですが、今は地元に住んで町内会にも入っており、生活の場となっています。



古町花街の会
久保有朋さん

「土気NGO」へ



拠点の空き家の所有者はどなたで、どのようなご意向をおもちですか。
(選考委員／関由有子氏)



所有者はもともと集落に住んでいましたが、引っ越してしまいました。こわたくない、使ってほしいというご意向で、若干の金額でお借りしています。



土気NGO
酒井洋平さん

「中万町自治会」へ



活動メンバーとして新たに女性や若者が入っていくのでしょうか。
(選考委員／関由有子氏)



基本的に住民で活動したいと考えています、それが大事だと思っています。また、所有者が地元に住んでいないで空き家となっている一軒について、自治会に預けてもらってメンテナンスを行っていきたいという構想があります。



中万町自治会
西村篤史さん

テーマ3 住まいとコミュニティの交流

7. かみいけ木賃文化ネットワーク（東京都豊島区）

【活動テーマ】上池袋の木造密集地域における現代版「木賃文化」を耕すプロジェクト

広報、活用実験、リサーチ等から、木賃アパートに足りない機能をまちにあるものをネットワークして使う木賃文化の発展を目指しました。

【キーワード】木賃文化 空き家の増加 人の創造性

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

① 掃除の徹底 ② 月1回のミーティングとメンバー全員から会費の徴収（当事者意識の醸成）

③ まじめに遊ぶ



発表者
山田絵美さん 土屋友美さん

8. NPO 法人リブ&リブ（首都圏全域）

【活動テーマ】高齢社会における「世代間・連帯」の住まい方一世代間ホームシェアの普及活動

独り住まいのシニアの家に大学生が同居する異世代ホームシェアの普及のために、HPの改善、パンフレットの作成や交流会を行いました。

【キーワード】独り暮らし高齢者 大学生の経済状況 血縁を超えた新しい絆

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

① 実際に交流することの重要性（交流会、ランチ会） ② 各々の強みを生かした組織運営

③ 原点「絆を作る」をぶらさない



発表者 石山資さん

9. NPO 法人ライフサポートセンターHAPPY（宮崎県都城市）

【活動テーマ】廃墟対策と相続登記の推進による都城活性化プロジェクト

円滑な相続登記の推進を目的にしたセミナーを開催するとともに、空き家・廃墟化へ対策を講じて活性化を図る対象地区を選定しました。

【キーワード】相続知識 エンディングノート 廃墟対策

【NPO活動・市民活動を継続させるために創意工夫している事柄3点】

① 助成を受ける ② 講座資料の刷新 ③ 運営資金の確保（謝金から寄付してもらうなど）



発表者 八反田久実さん

質疑応答

「かみいけ木賃文化ネットワーク」へ



もともと住んでいた人とそうではない人の活動への関わり方に違いはありますか。（選考委員／丁志映氏）



差はありません。立ち寄ってメンバーになって地域に住み始めた人もいます。関わろうと思えばいくらでも活動に関わることが可能ですが、その人の特性に応じるものです。



かみいけ木賃文化
ネットワーク
山田絵美さん

「リブ&リブ」と「ライフサポートセンターHAPPY」へ



相続関係者との接触はどのようにになっていますか。
(理事／杉山昇氏)



中心市街地を暗くしていくどうにかしたいと思っている土地を購入して、福祉ゾーンをつくりたいと考えています。個別に当たっていますが、係争中などで難しいのが現状です。ですがこのような問題をこじあけていくのが、NPO活動の一つではないかと考えます。



ライフサポート
センターHAPPY
八反田久実さん

「リブ&リブ」へ

高齢者の立場からすると、同居する若者の暴力や盗みなどへの不安があると思いますので、それらを解消するPRが大切だと感じます。また、若者についての人物評価機能を講じることも必要ではないでしょうか。（一般参加者）



良い事例を積み上げて、高齢者の心理的不安を取り除くことが大切だと感じています。また、若者の選別に関しては、代表が厳選を行っていますので、これまでのところ若者側からのトラブルは発生していません。



リブ&リブ
石山資さん

第3部 参加者によるディスカッション

学識者のコメント



評議員 山岡義典氏

空き家やシャッター街など、昔はなかった負の遺産に対するボキャブラリーが増えてきましたが、見方を変えると、そのような負の遺産が新しい豊かさの源になっていることを本日の発表をお聞きして感じました。不思議なことをやると人は集まるのですが、日本中にそのような不思議な拠点ができていて、皆さんの視点で新しい価値（豊かさ）がつくりだされていることを知り、楽しい時間を過ごしました。



評議員 小林郁雄氏

拠点の重要性を感じました。阪神淡路大震災の復興において、自分達で活動を推進する地域力、外部からの力である市民力、そして場所の力が重要な三つの力と捉えられてきました。本日の発表から、拠点があることで地域力と市民力の相乗効果が生まれることを再認識しました。



理事 鈴木輝隆氏

地域の深刻な課題に対して軽やかに活動する時代になったと感じました。災害などもあり、先のことを心配しても仕方がないので、いま自分のできることを自分のスタイルで楽しくやる、また、自分が何をしたいのかがハッキリしているのだと感じました。



前評議員 杉山茂一氏

付加価値をつけて空き家の管理などを行うなど、不動産業界などは新しいビジネスを開拓していくかないと先が見えない状況です。不動産業者とNPOでかなり重なる部分があるのでないでしょうか。かつての行政に対するNPOではなくて、営利に対して非営利など、NPOも成熟してきたと感じました。そして、本日の発表の中には営利目的として行ってもいいのではないかと思われる活動も幾つか見受けられました。



選考委員 関由有子氏

古民家等の古い建物には公的な施設ではない味わいがあって、初めてそこに集った人々同士にも半匿名性の出会いや、ほっとする時間をもたらす力があるように感じます。各まちに少しづつこのような場所が残ることで、人が寄っていくのかもしれません。



選考委員 山下馨氏

豊かさや価値とお金にどのようなつながりがあるのか、NPO的活動をしているときには一度改めて考えたほうがいいと思います。その上で何が必要なのか、価値をどのように判断するのかが大切ではないでしょうか。経済的な活動には、NPOだけでは発想が足りないと思うので、営利企業がやっていることを参考にしてもいいのではないかと思います。



発表団体と学識者の質疑応答

活動の拡大と組織運営について

Q

事業を拡大するにあたって、3人の主要メンバーではマッチングペアをそれほど増やせないと思われるので、どのような方向性を持っていけばよいのか、アドバイスをいただけませんでしょうか。



リブ&リブ／石山資さん

A

どこまで拡大するかによって戦略が違ってきます。どの程度の規模にするのか（何組のペアを成立させるには、何人の専従職員が必要で、フィーをどの程度得るか等）を考える必要があります。また、NPOの場合、必ずしも自分達が大きくなることによって課題を解決していくのではなく、共鳴する団体が色々と出てきてくれるほうが重要かもしれません。小さな組織がそれぞれの地域に生まれてくることのほうが、良いのではないでしょうか。



評議員／山岡義典氏

A

海外で異世代ホームシェアの調査研究をしてきましたが、30人のスタッフがいる団体もあれば、1人のところもあります。それらは、団体同士でネットワークを組んでいて情報交換や交流をして皆と一緒にやっていこうという意識を持っていて、ニーズも高まっています。既に貴団体はマスコミにも紹介されていますが、これからも住まい活動の周知を図り、エリアによって状況は変わりますが、自治体や大学と連携するなどしていけば、スタッフが少なくとも活動はまわっていくのではないかでしょうか。



選考委員／丁志映氏

A

今は問題ないかもしれません、活動が広がっていったときに（契約行為が発生するなどして）、法的にまた条例にどのように抵触するのか、抵触するのであればどのようにクリアして活動を展開していくべきかを現場で研究しておくことが必要だと思います。



理事／安藤雄太氏

芸術文化とまちづくりについて

Q

新しく価値を創造していくアート・アーティストが、まちづくりや地域におとしめるような（一般の人が考えつかない）仕組みや創造できることがあれば、教えていただけませんでしょうか。



かみいけ木賃文化ネットワーク
山本直さん

A

本日発表された皆さんの活動は、全てをお金に換算する現代の社会の在り様に一石を投じて、そうではない価値があること、金儲けよりも大事な日々の生き方があることなどを伝えています。最近、芸術文化がコミュニティづくり、空き家の活用、町並み保存、まちづくりに深くコミットするようになってきました。芸術文化活動は解決策をあまり提案できませんが、解決策に至るプロセスや課題の発見の仕方などを少々ひねってみせてくれるところがあります。例えば現在、社会のお荷物であると見なされている高齢者ですが、高齢者こそが若者を助けてくれる（生活の知恵や経験・家やお金のシェア等）存在であると提案できるのです。

活動報告・意見交換会の後は懇親会を行いました。

